

広報

わかた

Public-relations Wakasa

Contents

- 特集「成人式」 …… 2
- まちの話題 …… 6
- すまいる …… 11
- 町長随筆、クイズ …… 12
- 3歳で～す、文芸 …… 13
- 情報BOX …… 14
- 町からのお知らせ …… 17
- 暮らしのカレンダー …… 22

2

2012
No. 82

新成人として、よ～い

「ドーン」

(新成人記念パーティー レピア)



▼新成人誓いの言葉を述べる大上祐基さん

— 新成人誓いの言葉（要旨） —

選挙権を得る私たちは社会にも積極的に参加し、また、伝統を尊重しつつ、新しい発展へ互いに切磋琢磨しながら、これからの難局を乗り越えていきたいと思いをします。

これまで私たちは、両親をはじめ恩師や地域の方々から温かく見守られながら育ててまいりましたが、本日を境に一人の成人として広い視野を持ち、自覚と責任、そして、感謝の心を持って行動していくことを誓います。



祝

新

成

人

1月8日（日）、パレア若狭で、若狭町の新成人226人を対象として成人式が行われました。

会場には、晴れ着姿に身を包んだ193人が出席し、懐かしい顔を見つけると、久しぶりの再会を喜び合いました。

式典が始まると、受付前の表情とは違う、新成人らしく真剣な面持ちで式典に臨み、新成人としての晴れの門出を祝いました。

そもそも、成人を祝う風習は古くから存在し、おおむね15歳

になると、男子は髪を結い、頭に冠や烏帽子をかぶって服装を改めました。また、女子は、腰からしたにまとう裳と呼ばれる衣服をまとい、髪を結い上げ、歯を黒く染めて、成人したことを周りに示し、一人前としての扱いを受けていました。

明治以降には、兵役につく義務を課せられ、その徴兵検査が成人式の意味をもっていました。戦後、兵役の義務がなくなりましたが、成人としての節目を祝うものとして、1948

年に施行された「国民の祝日に関する法律」によって、「成人の日」として正式な祝日と定められました。



▲式典に参加した新成人

あなたは覚えていますか？

1991-1992

今回の新成人が生まれた1991年～1992年の出来事を振り返る

1991年 5月 大相撲横綱「千代の富士」が通算1,045勝の記録を残して引退

6月 ピナトゥボ火山（フィリピン）の20世紀最大といわれる大噴火
長崎県の雲仙普賢岳で大規模な火砕流が発生し、約40人が犠牲

8月 世界陸上男子マラソンで、谷口浩美選手が日本人初の金メダルを獲得

9月 台風19号（俗称：りんご台風）が上陸し、全国で約50人が犠牲

10月 秋篠宮様に長女がご誕生（眞子様）

12月 ソビエト連邦が崩壊

1992年 1月 大相撲初場所で東前頭「貴花田」が史上最年少での優勝

2月 第16回冬季オリンピックがフランスのアルベールビルで開催

3月 東海道新幹線「のぞみ」が運行開始

1991年と2011年

上の年表を見て何か思いませんか？ 20年前の出来事を振り返ると、昨年起きた内容に似ているような気がします。

まず、昨年に発生した災害といえば、世界中の人々を震撼させた東日本大震災と、紀伊半島全体を襲い甚大な被害を与えた台風12号。そして、スポーツ関係では、大相撲の大関魁皇が

通算1,047勝をあげ、横綱千代の富士の記録を更新して引退。さらに女子サッカーのなでしこジャパンは、ワールドカップで初優勝しました。

また、最年少記録といえば、タレントの芦田愛菜ちゃんが史上最年少で紅白歌合戦に出場しました。他にも、世界情勢では、リビア共和国のカダフィ政権の崩壊。鉄道関係では、九州新幹線が全線開通しました。

もちろん、似ているというだけで簡単に比較する訳にはいきませんが、20年前にも大きな自然災害や困難がありながらも立ち上がり、当時に誕生された方々が、こうして新たに成人として加わったことは、本当に嬉しい限りです。

復興元年と呼ばれている2012年の第一歩を踏み出した新成人たちを、心から祝福したいと思います。



▲成人証書を受け取る演頭悠也さん（写真右）と、岡本建斗さん（写真中央）



▲式典で国歌を演奏する村上夏生さん

新成人 の自覚 や目標

成人式に参加した新成人に、成人式を迎えた気持ちや、今後の夢・目標について一言述べていただきました。

また、今までのことや、目標に向かっての気持ちを漢字一文字で表現してもらいました。



三方地域の新成人



上中地域の新成人

■大上 祐基さん (三田)

会社員

振り返ると親に迷惑をかけてきた。これから本当に苦しい時には、今日参加してくれた友人たちが力になってくれると思う。



実行委員長

真

剣

■濱頭 悠也さん (世久見)

会社員

今まで親に甘えていたこともあるが、成人式を期に自立してやっていきたい。町の活性化にも役立っていきたい。



副実行委員長

進

化

■山本 彩也香さん (気山・中山)

大学生

社会福祉士を目指して勉強している。成人として今まで以上に親に感謝しないといけない。勉強して社会的弱者を救いたい。



生

きる

■橋本 隼輔さん (神谷)

大学生

大学でウエイトリフティングをしており、昨年の山口国体に出場した。将来は、スポーツ関係の職業につきたい。



勝

負

■松矢 賢さん (生倉)

専門学生

昔から動物が好きで、現在は酪農家を目指して勉強している。何事にもあきらめず力いっぱい頑張っていきたい



いっぱい



■岩崎 愛夢さん (上瀬)

専門学生

保育士を目指して頑張っている。親が支えてくれたおかげで成人を迎えることができた。今後は親孝行したい。



■下霜 真由さん (塩坂越)

専門学生

春から介護福祉士として京都で働く。これから自己責任となるので、成人として自覚した生活をしていきたい。



自己責任



■松田 一真さん (大鳥羽)

会社員

会社員として役立つ人間になりたい。社会に出てからも勉強することがあり大変だが頑張りたい。



勉強



■田中 文代さん (新道)

会社員

社会人として既に働いているので、これからは責任感を持って働いていきたい。



責任



■岡本 千香さん (有田)

大学生

看護学生として勉強中。明後日からも実習がある。みんなに笑顔を分け与えられる癒し系の看護師を目指したい。



輝き



人は国の宝

現在の成人の日は、1月の第2月曜日と制定されています。全国で地域ごとに差はあるものの、毎年1月の上旬から中旬にかけて成人式が行われています。

しかし、おめでたい事とはいえ、なぜ「成人の日」は祝日となっているのでしょうか？ 一説によると、戦後、物資も食料も

不足した時代に一番乏しいとされていたのは「人材」でした。良い国を作っていくには、国民自身が成長していかなければならないと考えた当時の人たちは、「子どもから大人になった自覚を持って欲しい」と願い、この日を祝日としたそうです。(日本文化いろは事典より)

昨年の東日本大震災においても、多くの尊い命が失われまし

た。しかし、被災地で現地の方やボランティアの方などの「人材」が復興に向けて活躍されています。

20歳になればアルコールが飲め、たばこを吸うこともできますが、「人は国の宝」と考えた先人たちの想いや願いを知ること、成人となる第一歩かもしれません。

まわりの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って
いましたらご連絡ください。
写真をさしあげます。
(企画情報課 TEL45-9110)



◀出来上がった
おろしそば

▶参加者に指導
する鳥羽さん
(写真右)



そば打ちに挑戦！(12/11)

「そば打ち体験教室」が、パレア若狭で行われました。

体験教室では、公民館行事などでそば打ちを指導している鳥羽正和さん(小原)を講師に迎え、参加した12人が、挽きたてのそば粉を使って、自らそば打ちをしました。

参加者は、そば粉が自らの手で、丸や平面に変化していく様子を感じながらそばを打ち、打ち上がったそばを、早速おろしそばにして味わいました。



山内かぶらのフルコース(12/17)

伝統野菜の山内かぶらを使った料理教室が山内集落センターで行われました。

この取り組みは、地域の伝統野菜である山内かぶらに関心を持ってもらい、生産地である山内集落の活性化のために、生産グループの山内かぶらちゃんの会が開いたものです。

この日、参加した24人は、小浜市の青池調理師専門学校青池睦子理事長が考案した、山内かぶらを使ったフルコース6品を、同校の講師に調理方法を学びました。

また12月22日には、福井県嶺南振興局において、五十嵐嘉也局長にも山内かぶらを使った料理を試食して頂きました。



◀講師から調理
方法を学ぶ参
加者ら

▶出来上がった
フルコース



▲演奏するKAPONOのメンバー



温かい演奏はいかが？(12/17)

Jライブ「クリスマスアコースティックライブ」が若狭三方縄文博物館で行われました。

今回のJライブには、高浜町を拠点に、京阪神のライブハウスで活躍している4人組のグループ「KAPONO(カポノ)」が出演しました。

会場となったシアターは、ウクレレなどを使った温かい演奏に包まれ、また、ボーカルの澄んだ歌声に、訪れた約50人の観衆は、曲に合わせて手拍子をしたり、一緒に曲を口ずさんでいました。



▲各階級の新人王ら（小林選手=前列右から3人目）



目指すは世界王者 (12/18)

プロボクシングの第58回全日本新人王の決勝戦が東京の後楽園ホールで行われ、若狭町日笠出身で、大阪の六島ジムに所属する小林健太郎さんが、東京の帝拳ジムに所属する喜久里正平選手を3対0の判定で破り、新人王のタイトルを獲得しました。

また、決勝戦が行われた12階級のうち、優秀な選手に贈られる大会三賞の1つである技能賞にも小林選手が選ばれました。

小林選手の戦績は、8戦7勝（2KO）1分けて、今回新人王を獲得したことで、12月27日に発表された全日本ボクシングのランキングで12位に入りました。



サンタさんとの約束 (12/19)

防犯を呼びかける防犯サンタが、とばっ子保育園を訪れました。

防犯サンタは、防犯組合若狭地区連合会上中支部が主催している取り組みで、上中地域の保育園を毎年順番に回っています。

まず、上中交番の永上晴仁所長と、福井県警のマスコットキャラクターのリユウピー君が、道路へ急に飛び出さないことや、防犯などを園児たち呼びかけ、その後、防犯サンタが登場し、園児一人ひとりにプレゼントを手渡しました。

園児たちは、お礼にクリスマスソングを歌ったり、踊りを披露しました。



◀永上所長の話を聞く園児ら



▶防犯サンタからプレゼントを受け取る園児



◀道具を使いながら講演する竹田さん

▶竹田さんの作品を眺める児童



強い思いで夢は叶う (12/20)

岬校統合30周年記念事業の一環として、キャリア教育講演会が岬小学校・三方中学校岬分校で行われました。

講演会には、ガラス作家で小浜市在住の竹田恵子さんを講師として招き、竹田さんがガラス作家になった経緯や苦勞、そして夢などを語り、児童生徒や保護者約40人が真剣に聴き入りました。

竹田さんは、「夢を叶えるには、勉強をすること。今、勉強していることは、かならず役に立つ。そして、やりたいことはできると、本気で強く思うこと」と話し、児童生徒らは、自分の夢の実現に向けて目を輝かせていました。



◀ウシガエルを探る参加者

▶外来生物について説明する西原特任研究員



カヤ田の自然を守るぞ (12/23)

気山集落にある湿地のカヤ田で、外来生物のウシガエルを駆除する取り組みが行われました。

この取り組みは、三方五湖周辺の自然再生に取り組んでいるハスプロジェクト推進協議会（略称：ハスプロ）が行ったもので、会員や地元の小学生ら約 20 人が参加して駆除作業を行いました。

ウシガエルは、アメリカ原産のカエルで、大きな口で在来生物を食べてしまいます。そこで、ハスプロでは、カヤ田の在来生物を守ろうと、ウシガエルの駆除に取り組んだものです。

駆除作業の後は、ショッピングセンターレピアで、東京大学の西原昇吾特任研究員から外来生物について説明を受けました。



体も頭も動かそう (12/24)

コーディネーショントレーニング講習会が、県立三方青年の家で行われました。

コーディネーショントレーニング（略称：COT）とは、思ったように体やボールをコントロールする能力を高めるトレーニングで、多くのトップアスリートたちも取り入れているトレーニングです。

この日、スポーツクラブわかさが主催する講習会に約 100 人が集まり、NPO 法人 JACOT の平井博史副理事長にコーディネーショントレーニングについて学びました。

参加者は、慣れない動きに戸惑いながらも、遊び感覚のトレーニングに、笑顔で汗を流しました。



◀トレーニングを教える平井副理事長

▶トレーニングを行う参加者



◀出来上がったクリスマスケーキ

▶生クリームをのせる参加者



世界にひとつだけのケーキ (12/24)

「クリスマスケーキづくり教室」が、パレア若狭で行われました。

講師には、反田良子さん（熊川）を迎え、世界にひとつだけのクリスマスケーキを作ろうと参加した 11 人がホールケーキを作りました。

午後からは、ノエルケーキを作る教室も行われ、クリスマスイブのこの日、参加者は自分で作ったケーキの出来栄に満足しながら、持ち帰っていました。

反田さんは、「ケーキづくりは、分量をおおよそにすると間違いの元。美味しいケーキを作るコツは正確な分量」と話していました。



▲思い思いのペースで走る参加者



走り初め！新春ジョギング (1/1)

野木地区で新春ジョギング大会が行われました。毎年元旦の朝に行われており、今年で22回目となります。

参加した地区の住民約130人は、準備体操をした後、一斉にスタートし、2kmのジョギングコースと1.1kmのウォーキングコースを思い思いのペースで完走、完歩しました。

また、コースの途中にある桂林寺では、参加者が初詣し、「今年1年良い年になるように」と願いを込めて手を合わせていました。

2日には、瓜生地区でも新春ジョギング大会が行われ、地区の住民が走り初めを満喫しました。



豊漁を願って (1/2)

小川神社で、「綱あみの儀」と「綱引きの儀」が行われました。

この行事は、小川集落に大正時代から続くといわれ、豊漁を願う正月の伝統行事とされています。

まず、神社内の能楽堂で若衆が「よいやっせー」と声をかけながら、約30mの綱を編み上げ、その後、社務所で宮守らが編み上げた綱に神事を行いました。神事が終わると、社務所の玄関から外に綱を出し、外にいる若衆や子どもと、社務所内の長老衆との綱引きが始まりました。

この綱引きの儀では、若衆側が勝つとその年は豊漁とされており、今年もめでたく若衆側が勝利しました。



◀「よいやっせー」と力強く綱を編み上げる若衆

▶「よいやさ」の掛け声で綱を引く区民



▲七草がゆを食べる園児（みそみ保育所）



無病息災を願って (1/6)

町内の園児が、七草がゆを味わいました。

1月7日にセリやナズナなどの「春の七草」を刻んで入れたかゆを食べると、邪気を払い万病を除くとされており、町内の保育園では、園児らの無病息災を願って、毎年七草がゆが食べられています。

保育園で出された七草がゆは、塩で味付けされた昔ながらの七草がゆで、食べた園児らは「おいしい」と、何度もおかわりをしていました。

■春の七草：セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ